

花きの県別生産出荷概況(6月見通し)

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積 ha	出荷見込み		5月のピーク(%)			主産地
				期間		出荷総数 千本	京浜地域向 千本	上旬	中旬	下旬	
				(ピーク)	(前年比)	(前年比)					
					(前年比)	(前年比)					
バラ	青森	施設	サムライ アバランジェ	5月～11月 (9月)	0.6 100%	190 100%	190 100%	30	50	20	田舎館村
	茨城	施設	アマダ, ア バラ チェ, サム ライほか	周年	8.0	430	390	35	35	30	古河市, 石岡 市他
	群馬	施設 (周年)	アヴァラン チェ サムライ08 ほか	周年 (5～11月)	12.8 (100)	927 (105)	699 (105)	33	33	33	前橋市 富岡市 昭和村
トルコギキョウ	茨城	施設	レイナホワ イト, ボ ヤージュ, 他	周年 (6月～7 月)	7	310	180	35	35	30	常陸大宮市, 水戸市, 石岡 市他
	群馬	施設 (促成)	ロジーナ ボヤージュ バルカン ほか	周年 (6～11月)	6.2 (100)	217 (101)	177 (101)	20	30	50	太田市 館林市
	千葉	施設		4～8月 (6月) 10～12月 (11月)	7.2 100%	510 95%	510 95%	30	35	35	
		施設		10～8月 (5～7月、 10～11月)	2.0 100%	450 100%	400 100%	30	40	30	
小ぎく	茨城	施設	夏ひかり, 玉姫 ほか	5月～11月 (8月～9 月)	128	3,000	2,300	20	35	45	笠間, 石岡 市, 龍ヶ崎 市, 筑西市ほ か
	沖縄	露地・ 施設	精やさか(黄) そよ風(白) 精かのか(白) 精あかり(赤)	11月～9月 (12月・3月)	3.3 110%	1,300 110%	585 110%	30	35	35	糸満市 うるま市 八重瀬町 沖縄市 今帰仁村

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
バラ	青森	作付面積は横ばいとなっていることから、前年並みの出荷量を見込む。 生育については病虫害被害もなく順調に推移している。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現 状</div> 母の日需要によりピンク系、赤系のSP、STDの引き合いが強かった。中・下旬については、需要も無く落ち着いた取引。 輸入品は母の日まででほぼ出荷終了となった。
	茨城	品質、出荷量昨年並みの見込み。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き 高冷地、暖地の品質差が大きくなってくる。父の日需要に向けてピンポイントで輸入品の入荷有り。それ以外に大きな需要は無い。
	群馬	昭和村(中山間地)からの出荷も本格化し、県全体の出荷量は潤沢となる。生育はどの産地も順調で、環境制御システム導入の効果も見られるため、出荷量は前年に比べやや増加する見込み。 一部産地でうどんこ病、ダニの発生が見られるが適宜防除にあたっているため特に問題はない。	FAJ 引き続き高冷地主体の入荷。暖地徐々に減少し産地切り替わり。数量は平年並み。 <small>東日本板橋花き</small> 母の日、婚礼等業務需要で多少は動くが販売は厳しい。入荷は横ばい。 世田谷花き 各地から入荷が出揃い、潤沢。販売は厳しい見込み。
トルコギキョウ	茨城	品質、出荷量昨年並みの見込み。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現 状</div> 4月からの相場安に伴い、5月も母の日前でやや失速し、相場が上がりきらなかった状況。沖縄は減少、九州、静岡も2番花が後半以降出始めた。母の日以降は例年通り落ち着いた取引となった。
	群馬	2番花が出荷最盛期となっている。天候に恵まれ日照が豊富だったことから、生育はやや前進傾向で切り上がりも早まるとみられる。病虫害等は特に問題はない。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き 季咲の千葉、茨城が徐々に増加。九州、静岡の2番花が増加。6月はブライダルもそれ程多くないので、小売りに向けての販売が多くなる。
	千葉	①天候不良で生育はやや遅れ気味。 ②ポヤージュ・シリーズ等の大輪系を中心に多品種。 ③生育は順調。茎も太く、草丈も取れている。6月に向けて徐々に出荷本数が増加してきている。 ④サカタ、ミヨシの品種が中心。フリンジの品種が多いが、一重咲きのオリジナル品種まで多種類有る。 ⑤次作に向けた播種が徐々に始まる。	FAJ 高冷地本格出荷。福島、山形、宮城などより入荷。西南暖地は徐々に終了。平年並みの入荷を予定。 <small>東日本板橋花き</small> 6月の下旬以降は暖地の2番花が終わり、高冷地が今年も7月からの出荷者が多い為、下旬は品薄傾向。 世田谷花き 熊本・高知など西南暖地の2番花が増え、潤沢。千葉産も最盛期を迎える。
小ぎく	茨城	品質、出荷量昨年並みの見込み。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現 状</div> 上旬は、母の日参り需要があったが、中旬以降に関しては大きな需要が無く厳しい販売となった。沖縄産については出荷終盤を迎え数量が徐々に減少、下旬以降は不安定な入荷となった。
	沖縄	今期から取組み強化により夏秋小ぎくの生産拡大を図り、生育は概ね順調に推移している。配色バランスは黄：白：赤＝58：34：8黄系と白系の作付が中心となっている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き 関東近郊産地の出荷が徐々に始まってくるが、常駐時は数量が纏まらず不安定な入荷となるため、引き合いは安定する見通し。下旬以降は、各産地緩やかに数量が増加していく。 FAJ 茨城を中心に関東主体の入荷に。沖縄も夏菊系を出荷。相場は平年並みを予定。 <small>東日本板橋花き</small> 仏花需要のみ。全般に動き鈍い。2L @40～ 世田谷花き 茨城県産増える。100入りの為、単価も出やすいか。